

郷土産業考察の一例（上）

淡川 康 一

等しく、産業の地理的觀察と称するも、此の中、最も地理的因子が、強く且つ広く作用するものは、郷土産業であろう。蓋し、此の部門に於いては、風土、地形等の地理的環境は元より、更らに、当該地方住民の民族性が、最も明白に表現されるからである。工場制經營に依る、近代の産業は、その立地要因子としては、純然たる地理的なものよりも、むしろ、多く、経済的色彩の濃厚な因子に支配される処多く、従つて、是が立地論的研究は、たとい、一般に、産業立地論が経済学と経済地理学との境界帯を占めるとは云え、むしろ、経済学の研究範圍に、属す可きであろう。然るに郷土産業の多くは、それが、家内工業の經營形態を採る結果として、地理的因子が、一面、極めて強く、作用することは、是を看過し得ないのである。経済地理学に所謂經濟景觀 (die Wirtschaftslandschaft) とは、自然景觀に、人類の經濟活動が作用して出来た処の、自然と經濟との調和された景觀を云うのであるが (vgl. R. Lüttgens: Die geographischen Grundlagen und Probleme des Wirtschaftslebens S. 215 f.)、此の意義に於ける經濟景觀 (die Wirtschaftslandschaft) の中の一たる産業は、郷土産業が、最もその代表的なものであろう。筆者、過般、北九州に産業視察を試み、博多に滞在すること数日、街頭至る処、人形屋を見、會つて、

此の地に百年前、大法を挙揚せし名僧仙厓が、その得意の戯墨を試み、博多人形を籠に入れ、天秤棒でかつぎし、人形売の行商図を想起し(此の墨蹟、京都花園妙心寺山内・桂春院現存)、人形の街・博多の郷土産業たる斯業が、市の背後の油山連山より、雲母を含む、特有の土壌出で、是が、人形の母胎をなす地理事情を思い、広く、郷土産業研究方法を調査する興味にそがれたのである。今、ここにビュツヘルの雄篇たる「クリスマス市場に於ける家内工業」(K. Bücher: Die Entstehung der Volkswirtschaft. 2. Bd. 8. Aufl. S. 161ff. Die Hausindustrie auf dem Weihnachtsmarke)を紹介する所以のもの、上の微意に出たのである。尙お、一筆の附記す可きは、国民性、民族性、地方気質等が、たとい、是等の要因は、一部地理学者により、その作用の極めて微弱なることが、強調されているが、郷土産業に於て、最も明らかに滲み出ていることも、その特徴として、挙ぐ可きであろう。

(cf. g. Rascholsonew: An Atlas of Economic Geography, 1914. XII—XIII)。

基督降誕祭の飾木が、又その経済的方面を有すること、クリスマスに於ける贈物が、若し家計が整備されているならば、家計簿に於ける一の、重なる費用を構成することは、一家の経済を預かる主婦の等しく経験する処であろう。又商人、工業家の側に於いても、凡そ、贅沢消費が、人口の総ての階級にあつて、大なること、及び一年の如何なる時と雖も、各人の財布が、容易に開かざることを知り、是等の事情に相応して、すでに、数個月間、予め、その計画を企てること、常である。

事実上、クリスマスに於ける贈物が、単に一の、大なる、宗教上の風俗たるに止まらず、又諸民族の経済生活

に於いて、一の、力強き要因を成すものである。凡そ、此の習俗は、子供の心臓をより速かに打つのみならず、交通管を通して、経済単位の血液を一層速かに循環せしめ、かくして、鉄道及び郵便の利用は、特に高まり、一方に於いては、商店、仕事場及び工場に、勤勉なる、数千の手を運動せしめるのである。かく見れば、此の、宗教上の一風習は、子供達をして、二三日間、菓子美食を以つて、喜悅せしめるのみならず、又多数の大人に、労働の機会を与え、屢々、一個年分にすら相当するパンを提供するものである。」

凡そ、クリスマスに於ける贈物が、国民経済に及ぼす作用を探索することは、統計学にとつて、一の、興味深き課題であらう。而かも、此の課題たる、従来未だ解決されざる処である。その理由は、凡そ、此の需要たる、クリスマスの際のみ、その充足を求め、一年の、他の時期には、現われざる、一種特別な需要たることが、一であり、更らに、他の理由を考うるに、クリスマスに際しては、多数の、平常の欲望も、亦、一層高い程度に於いて、充足されることが普通であり、このことは、クリスマスに先立つ充足も、又クリスマスに後れる充足も、何れも、クリスマスに集中して、充足されることが常である。クリスマスに於ける贈物へ移る処の商品を、その他、年の全体の、同じ種類の需要から分つことは、不可能であらう。而して、一族中の、可憐な手が、吾人のために創造し、且つ提供する処の、最高に見積られた贈物は、漸く、初めて、正に、経済上の計算から除分されるが、然し、経済財に就いての、需要の一種は、是が充足を、たとひ絶体的ならずとも、その最大部分は、クリスマスの際に於いてのみ、求めることが、屢々である。それは、此の世の人間が、持つ処の、第一の、贅沢な需要であり、而かも、贅沢とは云え、是が充足は、経済学及び倫理学の見地よりするも、等しく、満足を以つて安んず可きものである。吾人が、此処に、述べんとする処は、玩具類を求める、若人の需要是であり、此の願望

たるや、最も貧しき人口層も、亦充足せんと試み、而かも、後からの後悔なしに、充足し得る願望である。

凡そ、子供達が、その小さき世界を創造する処の、原始的な対象、例之、彼の、粗野ながらも、正しく刻まれた動物の型と樹木、家屋及び台処、人形、操り人形、車、揺り木馬、毬、毬、毬、毬、凡そ是等の玩具類は、貧富を問わず、如何なる家庭内に於いても、等しく、大なる役目を演ずるものであり、又是等の玩具類は、時代が経過すると共に、多方面に変じ、更らに、其の種類に於いても、豊富になるが、然し、是が基本型は、総ての民族にあつて、又総ての時代に於いて、常に、同一のものが、繰り返されてゐるのである。

凡そ、是等の玩具は、子供にとつては、其の最初の所有物を成すものであり、又子供の、外界に対する最初の理解力は、是等の玩具類を通じて、発達するものとも見ることが出来、更に、玩具によつて、自、他を区別する、最初の觀念が養われるのである。子供達にとつて、最初の財とも見る可き玩具の起源に就ては、彼等は、何等顧慮する処なく、加之、子供等は、人生の黄金時代とも云う可き、幼年時代には、凡そ、事物が、何処より来るか、是を尋ねることなく、況んや、其の獲得に關しては、何等顧慮せず、唯、其の所有物を楽しむのみである。然し、又一面に於いては、大人も、亦此の問題に就いて、考究すること極めて稀であり、単に、需要が、適當な方法で、充たされるならば、満足するに止り、而かも、このことは、大なる困難を伴うものではないのである。

一年の中で、最も視す可き祭典たるクリスマスが、切迫し来るや、大衆を、その利害に關係すること大なる、クリスマス市場の生産場へ導き、その注意を喚起し度く思うのである。玩具工業以前の、若干の、他の産業部門に於いては、その生産個処が、多数の国及び地方に広く分布してゐるために、此の企図は、必ずしも、実行容易でないが、独り、玩具工業にあつては、限定された、極めて僅かの生産場処から、云わば、世界の半分を占める

諸国の子供達に向つて、供給されることが、その特異の現象として、注意に値し、凡そ、玩具商の陳列棚が、本質的に、同じ実相を呈している主因も、此の一事に求められるのである。対象の種類に於てのみならず、又その構造及び色彩の点にあつても、驚く可き均一性が認められ、而かも、此の均一均性は、子供の好みが、到る処、等しいことに、その原因を有していると解釈してはならぬのである。蓋し、若し、何処かで、生産者が、その商品の、他の型及び装置に対して、消費に向つて、決定的な影響を及ぼすならば、それは、子供の玩具の場合である。勿論、販売者の陳列棚には、種々の玩具が並べられて居り、是等は、何れも、本質的に、色々な起源に溯るところが出来、例之、独逸の、又仏蘭西の商品と云う様に、夫々、その特徴が看取されるのである。一般に、独逸の玩具は、その型が、多様性に富むことが、特徴であり、このことは、主として、次の事情に、その主因が求められると思う。即ち、數十年來、継続して維持されて來た処の、元來の構成に、不斷に、新なる變種が、増加されるに至つたのである。一般に、独逸の玩具は、日々の、国民生活の諸現象に、深い關聯を保つ様に、工夫されて居り、このことによつて、子供達を、是等現象の中へ、引さ込まんとするのである、例之、家、屋敷、台所と居間、馬小屋と庭園、村と町、是等が、何れも、各種の、特徴ある現象に於いて、表現されて居り、是等現象の生活現象が、移写されている事情と結合して、子供達は、或いは、運轉手又は牧人となり、時には、兵士又は商人として、又時には、大工或いは座長として、少女は、台処女となり、時には、主婦として、又時には、子守り或いは乳母となり、夫々、子供に特有なる、活潑な想像力を働かすのである。此の場合、玩具製作者が為す処のものは、実物教育に於ける、最初の、且つ最も簡単な方法であつて、例之、屢々見受ける球及び獨樂に於ける如く、又各種のガラガラ及び吹奏楽器に見る如く、子供の耳目を樂しますために、その運動欲を刺激することを目的と

し、又多数の判じ物、或いは団体遊戯に於ける如くに、子供を刺激する様に企てられているのである。玩具の種類は、極めて多数に上り、よく品分けをしている一玩具商を見ても、その取扱う玩具の種類は、実に一万二千乃至一万八千に達し、是等各種類を通じて、恰ねく認められる特徴としては、力強い、粗朴な自然主義、感情に充ちている、下手味横溢の拙劣性、又屢々、自然のままの滑稽味等が揚げられ、是等のことは、又正しく、子供の年齢に、最もふさわしいのである。凡そ、玩具が製作される処の素材は、主として、木材と、紙の軟塊を乾し固めたものであり、又稀には、錫、鉛、鉄及び粘土等が使用され、玩具の価格の安値なことは、その商品の、自然の性質に依存しているのである。玩具は、然し、唯、それが、破壊される為めに、存在している様に思う。

眼を転じて、仏蘭西の玩具を見るに、事情全く是と異り、此処では、優雅、工夫、趣味、流行、精製、凡そ、是等の点に、主力が用いられ、若し、何処かで、仏蘭西の作家の、多く賞賛された、流行の上手さが、表現されているならば、それは、玩具の世界に於いてであり、永年、労働者と工業家は、新しい商品に就いて、考案している、一の、旨い考え方が、その眼目であり、何か、思索的な頭脳が、此の場合、万事を考案しているのは、正に、驚く可きものがある。大工業に於ける。総ての製品は、玩具の場合、小規模に於いて、模倣され、又、物理学及び機械に於ける、科学上の諸進歩は、快活にするが、又は、おどけた、異形の型に於いて、その応用を見るのである。此の場合、凡そ、総ての、考案し得る材料、即ち、木材及び鉄、鉛、銅、粘土、皮革、毛皮、羽毛、紙、藁、かわやなぎ、護謨等が、使用されて居り、又、他の工業に於る廃物が、最も多く使用されるのも、玩具の製作に於いてである。未だ曾て、何処にも、使用され得ない様に思われるものも、玩具製作家は、是を材料として、新作を試みることを知つて居り、若し、一の商品にして、成功するならば、即ち、その大量生産を為すに、

充分に簡単且つ安価であれば、その商品は、僅かの間に、世界に流布することになるであろう。今、一例を挙げ
るならば、千八百七十年代の中頃に出現した処のクリー・クリー (Kri-Kri) であるが、此の玩具は、それが、
巴里で、初めて、御目得してから、僅か数週間にして、歐羅巴の、総ての大都市に拡がり、若者の、真の狂喜、
神経質な母の驚き、而して、街頭公衆の不機嫌を喚起したのである。

複雑化する対象、即ち、運動機構を有する動物、機関車、時計等は、同様な方法で、又、米國に於いても、多
方面、且つ、屢々、驚く可き堪能性を以つて、完成されつつある。然し、此の種の、亜米利加玩具は、多くは、
一の、よい趣味を養う目的より見れば、仏蘭西玩具に劣るものがあり、完成の洗練さと、優美と云う点よりすれ
ば、巴里の玩具は、世界に、その競争相手を持たぬのであつて、その人形は、時には、真の芸術家たることがあ
り、又、着物女工及び婦人用小間物女工が、是を、巴里衣裳の型として、利用することが屢々である。凡そ、巴
里製の玩具は、巴里風の衣裳に於ける如く、急速に変化する流行に支配され、此の流行へは、時として、政治が、
影響を及ぼす場合がある。

又、生産の場処及び経営方法に關しても、獨、仏蘭國の玩具工業には、一の、著しい、注目に値する區別が認
められるのである。

独逸の玩具工業は、その起源、遠く中世に溯ることが出来、是が古い所在地としては、先ず、ニュールンベル
ヒ (Nürnberg) を挙げる事が出来る。此の都市に於ては、すでに、第十八世紀に、木材彫刻及び人形師仲間
には、同業組合が、組織されて居り、「ニュールンベルヒ (Nürnberg) の玩具は、全国へ行き渡る」と云う常套
語は、此の時代から、胚胎するものである。現今に於ても、亦、ニュールンベルヒ (Nürnberg) は、その近隣諸

都市たるフェルト（Fürth）と共に、尙お依然として、独逸玩具工業の中心点の一を形成し、フェルト（Fürth）だけでも、約六十の工匠が、年額、四万チェントナー（Zentner）（一チェントナーは、百磅の重量）の玩具を製作すると云うことである。若し夫れ、玩具の雅趣性に至つては、勿論、ベルリン（Berlin）とシュツットガルト（Stuttgart）とが、ニュールンベルヒ（Nürnberg）に優るのやある。

時代が経過すると共に、上述の中心地以外に、尙お、此の工業部門には、三個の、他の故郷が発生するに至つたのである。その中の二個は、すでに、先づの中心地点を、はるかに、凌駕して来たのである。此処に云う三個の中心地帯とは、何れも、農耕僅かに行われ、而かも、稠密な、又一方に於いて、貧しき人口を有する処の、木材に富む山嶽地方である。即ち、チェリンガーヴァルト（Thüringer Wald）、エルツゲビルゲ（Erzgebirge）及びアルプス地方を指すのである。

是等三個の中心地点の中で、チェリンガーヴァルト（Thüringer Wald）に於ける玩具製作は、一の世界的工業にまで進展するに至り、その中心地点は、ゾンネベルヒ（Sonneberg）、ノイシュタット（Neustadt）、ハイデ（Haide）、イルメナウ（Ilmenau）及びヴァルテルスハウゼン（Waltershansen）等の小都市であり、ゾンネベルヒ（Sonneberg）だけからの年額輸出でも、十乃至十一（百万）馬克に達すると云うことである。

エルツゲビルゲ（Erzgebirge）の玩具工業は、主として、サクソニアの小村たるザイダ（Sayda）とオルベルンハウ（Oberhausen）とそれから、奥大利国の小都たるカタリナヘルク（Katharinenberg）の間の地方に集中してゐるのである。サクソニアの裁判所ザイダ（Sayda）の全生産は、年額、一百万に上り、而して、オルベルンハウ（Oberhausen）の玩具輸出は、六乃至七十万馬克の額に達して居り、二十個以上の村落に於て、殆ど、その全

人口は、此の産業によつて、衣食の資を得て居るのである。

アルプス地方に於いては、玩具商品に対して、特に、バイエルン (Bayern) に於けるオーバーラムメルガウ (Oberammergau) とベルヒテスガールデン (Berchtesgaden) が、又、チロル (Tirol) の南部に於けるグロエナー溪谷 (Tals Friedens Thal) が、夫々、有名であり、前者からは、年額、五千チエントナー、後者からは、約八千チエントナーの玩具が、五十万クロエネの額で、輸出されているのである。

以上述べた処の中心地点以外に、尙お、独逸中間山嶽 (Mittelgebirge) には、若干の、小さい玩具工業地区が存在し、その主なる地方としては、ズーデテン (Sudeten)、リーゼンゲビルゲ、(Riesengebirge)、バイエリッ シェヴァルト (der Bayerische Wald) 及びラウエアルプ (die Raube Alp) 等が、挙げられるが、是等は、何れも、餘り、重要ではない。

凡そ、独逸の玩具工業を特徴付けるものとしては、その経営方法が、家内工業の形態を採っていると云うことであり、子供等のために、働らく、此の産業は、云わば、尙お、子供の靴を脱ぐに至らなかつたのである。その製作は、家族の圏内で行われ、普通の家内仕事及び野外仕事と一緒に、又は、是等の傍らに、営まれて居るのである。又、その設備資本は僅少であり、更らに、その生産要具を見るに、アルプス山脈の地方に於いては、小切れの鉄、エルツゲビルゲ (Erzgebirge) にあつては、施盤、チューリンガーヴァルト (Thüringer Wald) では、その生産品が多型的なるため、極めて簡單ではあるが、各種の道具類が、使用されて居り、機械に至つては、全く、唯個々の、用いられるに過ぎないのである。玩具製作者は、その産物の最終消費者とは、何等直接の關聯を有せずして、その商品が、最終消費者へ届く為めには、商人による媒介を必要とするのである。

勿論、独逸には、又、大規模な玩具製作工場があり、是等は、伯林 (Berlin) 及びシュトゥットガルト (Stuttgart) の如き都市に於いて、一の特種な商品を、無数の形態の下、製作し、又、自から、是等を販売して居るのである。是処で製作される玩具は、版画紙、絵本、板紙及び製品、鉛の兵士、金属、護謨製玩具、陶器の人物である。

転じて、仏蘭西の玩具製作工業を見るに、その起源可なり新しく、その中心地は、巴里 (Paris) であるが、尙お、此の外に、木製玩具は、フォージェゼン (Vogesen) に、石の彈石は、セヴェンヌ (Cevennes; Cevennen) に、他のものは、ジュラ (Jura) に於いて、夫々、製作されて居るのである。巴里 (Paris) に於ける玩具製作は、その有名な人造花の製作に倣つて、最も卓越した大部分を構成し、此の都市の濫沢工業の主要部門の一に属するのである。すでに、千八百七十二年に、三千四百人以上の従業者があり、その中の二千四百人は、婦人である。此の、大抵の労働者は、独立の企業家であり、是等の企業家は、その製品を、販売用の雑誌により、又は、委託販売の方法によつて、販売して居り、此の委託販売者は、是等の製品を蒐集する為めに、結合し、以つて、全世界へ発送するのである。凡そ、工場的経営方法は、此の種の、流行の速かなる生産に対しては、困難であり、且つ、大なる危険に曝されるであらう。

是以外に、尙お、特定の種類の玩具を、他の品物と並行して、製作して居る産業経営者の多数があり、是には、玩具時計及び小形風琴、軽気球及び魔法提燈、人形の頭及び護謨商品、数合せ遊びの玩具及び小供菓子用の小形道具の製作が属し、是等商品の中の若干は、巴里 (Paris) 以外の処でも、工場経営の方法によつて、製作されて居る。巴里 (Paris) に於いては、玩具時計を製造する為めに、多数の、大なる店があり、是等は、何れも、

数百人の労働者を傭い、日々、数千個の時計を供給し、是等の時計が、巻かれて陳列されて居る。その全生産量は、年額、三十(百万)個に上り、此の数字は、巴黎(Paris)が、年間に、仏蘭西、独逸、露西亜、英国、伊太利及び埃太利の諸国に於ける、五歳から十歳までの子供全部に、各々、一個の時計を供給したことにたると云う。かかる、一見しただけでは、著しからざる商品が、一国民の家計に於いて、如何なる役目を演じているかは、仏蘭西に於いては、年額五十万フランクの人形が製作され、巴黎(Paris)のみから輸出される玩具時計が、五十万個以上に上る事実を見ても、明白であろう。

仏蘭西に於ける玩具工業の能力、亦、如何に驚嘆に値するものがあるとしても、次の一事は、否定し得ないものである。即ち、その構造と装置の精練と云う点に於いては、子供の、純真なる悟性を斟酌するよりも、むしろ、大都市に於ける文化人の、洗練された趣味に適合する様に、製作されて居り、従つて、その商品価格も勢い高価となり、唯僅かの人のみが、是を入手し得るに止るのである。是に反し、独逸の玩具製作は、唯最近、新しい趣味の要求と活潑な発明精神が見出されるが、何れにしても、総ての階級の、総ての国の子供の爲めに、生産されているのである。是こそ、真の国民工業、世界工業と云う可きであり、その製品は、総ての大陸へ送られ、特に、米印度、東印度、埃及、濠洲、欧羅巴の各国に輸出され、仏蘭西に於いてすら、大量に、販売されているのである。唯、仏蘭西品輸出額は、近年稍々減少したが、是は、国民的対立が強化されたと見るよりも、むしろ、仏蘭西に於ける関税率の引上げが、その主因であろう。

吾人は、以上の事実から、次の、二重の結論を引出すことが出来る。即ち、一は、独逸人に特有な、感情的家庭生活に対する意識が、彼の玩具製作者にも、亦、子供に向けられた愛に充ちた沈潜て表現されて居り、他は、

独逸の工業地区に於ける、世界的商品としての玩具製作が、他の諸国民が、殆ど提供し得ぬ処の価格で、行われて居ると云うことである。

第二の結論は、最初の瞥見に關聯するのである。独逸の玩具製作は、既往の如く、殆ど絶体的に、家内工業及び小経営に依存し、その、最も重要な材料は、三十年來、不断の価格騰貴に曝されるに至つた。その製品の安値性は、他の世界商品の如くに、労働を節約する機械によるか、又は、安価な素材を使用する、生産費の低下に基くことは出来ぬのである。此の爲めには、他の事情に、原因を求む可きであり、今、此の原因を、その根源に於いて、認めんとして、次の、二個の玩具工業の主要地区の実態を紹介して見よう。ここに所謂、二個の地帯とは、一は、マイニンゲン (Meiningen) のオーベルラント (Oberland) であり、他は、チロル (Tirol) の南部に於けるグレーデン溪谷 (Tal Gröden) である。彼の、チューリンゲン (Thüringen) の工業地区の諸事情は、すでに、有益な記事によつて、世に紹介されたので (vgl. E. Saxe: Die Haasindustrie in Thüringen I. Teil: Das Meiningen Oberland Gené 1883) 今、ここには、グレーデン (Gröden) の工業を觀察して見よう。

チューリンガーヴァルト (Thüringer Wald) の南部、即ち、此の地方が、フレンケン洲へ平垣に展開する処に、マイニンガー・オーベルラント (Meiningen Oberland) が位置し、その地積は、九平方哩に達せないのである。氣候嚴厲にして、土地は、石多く、沃土に乏しく、唯、狭い溪谷に於いてのみ、若干の耕作を見るに過ぎないのである。更らに、高処に至れば、貧弱な馬鈴薯畑も、盛大に赴かずして、殆ど、繁茂してないのである。此の地方に於ける農地の過半は、國庫に帰屬し、又、同様、森林の大部分も、國有である。

以上の事情のみから、判断するならば、此の地帯は、稠密な人口を給養し得る土地でない様い思われるが、而

かも、現実には、此の地方に、一平方哩当り、七千人以上の人間が、生活しているのである。此の数は、自然に恵与されたラインランド (Rheinland) と同様である。此の事情は、一見して、次の事実を明白にするものである。即ち、既述の如き、農業の状態は、元より、此の人口を給養するに、不充分であり、唯工業、而かも、地方的需要を超過して、広い地帯、又は、世界市場を目指す工業のみが、経済の本源を成すのである。

而して、此の貧寒な地方は、かかる工業の發達に対して、一個以上の、有利な条件を提供しているのである。即ち、此の地の最北部たるシュタイナハ (Steinach) 及びグレーゼンタール (Gräsenthal) の両地帯は、それが、石板石の断層に富む点に於いて、一の材料を提供し、而かも、此の素材は、是等兩地方を除いては、歐羅巴大陸全体を通じて、唯、グラールス州 (Kanton Glarus) に於いてのみ、産出するに過ぎないのである。為めに、是等の地方は、石筆及び石板の供給に於いては、独占的地位を占め、而して、此の諸村の一系列に於ける人口は、殆ど、此の、学校初年級の必要品たる書道具の製作に従事しているのである。

更らに、第二の、重要な工業原料は、此の地方の山脈の、豊富なるえぞまつ、樅、山毛櫸の森林が、是を提供し、是等木材が、豊富な事情に刺激されて、すでに、中世に於いて、ニュールンベルグ (Nürnberg) の商人の企図により、一の、簡単な家内工業の成立を見るに至り、是等商人は、多く、此の山脈を越えて、北東の方へ通じている商路を利用したのである。此の家内工業は、漸次、当初の、芸術味に乏しい家具並びに皿、鉢、湯沸し、箆筒、箱、鏡の枠等の台処用具から、木製玩具の製作へと移行し、最近では、殆ど、玩具のみに専念している有様である。玩具工業の前市とも見る可きは、すでに、第十七世紀に、ゾンネベルグ (Sommerberg) が、是を形成し、此の都市は、現今、一万人以上の人口を持つて居る。

木材が豊富に産出されること並んで、尙お、陶土が出現していることは、マイニンゲル・オーベルランド（Meininger Oberland）に於ける硝子工業及び陶器工業の發達の主因を成するものであり、是等の工業は、陶器製の、人形の頭と硝子の、人形の目を作ることによつて、やがて、共に、玩具工業の領域へも、進入するに至り、加之、近年に入つてからは、玩具自身も、亦、屢々、陶器及び硝子から、製作される様になつて来たのである。尙お、更らに、次の一事を附言する要がある。即ち、彈石及び石製の彈玉、クリスマス樹の装飾品の製作も、亦、此地方が、その主産地である。かく見れば、此の地方一帯は、自然的には、極めて恵与に乏しい処であるが、子供達にとつては、一の黄金国であろう。子供達の、揺籃時代から、学年初年級に至るまで、此の地方の工業は、彼等に親しまれ、子供が、成長して、インキを使用する様になつて、初めて、此の工業から、分れることになる。

硝子工業及び陶器工業の一部を除き、是等の工業部門は、何れも、その経営形態としては、家内工業に属して居る。現今、尙お、家内工業は、広い範圍に互つて、一の理想として、推奨されているが、是は、一面に於いては、手工業の制限を、その世界市場を目指す生産によつて、避けること、他面に於いては、彼の工場制工業に見る様な、資本に対する、労働者の依従關係が認められないこと、凡そ、此の二点に、理由が存するのである。家内工業の生産者は、或る程度、依然として、独立状態を保持し、又家庭的団樂の平和によつて、保護され、子供の成長を見守り、子供等は、母と共に、生産者の仕事を手伝い、更らに、生産者は、農耕及び園耕によつて、生活物資の一部を、自から作るのである。一の、愛らしき、清楚な室、窓際の石竹の香、鳥籠のカナリア、全体の家族は、働き乍ら、食卓に就く、溫和な空氣、控目の幸福、凡そ、是等は、家内工業の嗜美者が描く一素描

である。

今、取扱つてゐるマイニンゲル・オーベルランド (Meininger Oberland) に於ける玩具工業も、亦、如上の家内工業の楽しき雰囲氣に包まれてゐると、想像する人もあろう。然し、事實は、正に是に反し、前者は、決して、氣楽な、又は、人間にふさわしい生活を送つていないのである。彼等は、一般に、家内工業の痛とも云う可き、中間分枝としての商人に依存し、是等の中間商人は、製品販売の爲めに、製造業者と消費者との中間に、割り込むのである。

人、若し、オーベルランド (Oberland) に於ける玩具家内工業の労働組織を知らんとするならば、先ず以つて、労働者が、玩具の、主な種類に於ける群団と、同じ群団へ、分れてゐることに着眼せなければならぬ。是等労働者群団の各々は、更らに、次の、二個の階級へ分枝する。即ち、完成者又は製造業者と、人夫頭又は職工長、是である。而して、製造業者は、夫々、その完成する玩具に應じて、人形作り、洗札を受ける人形造り、毛皮獸製造者等と呼ばれ、一方、予備労働者、即ち下仕事師は、彫刻師、旋盤工、人形の胴体造り、形の台作り、人形の頭作り等の条件が、夫々、使用されてゐるのである。是等の下仕事師は、多く、村落に居住し、製造家自身は、ゾンネンベルグ (Sommerberg) に住んでゐる。さうして、一つの製造業者が、商人から、一の注文を受けるや、彼は、直ちに、下仕事師の、色々の種類のものを取り寄せんとして、個々の部分品を注文し、是等の部分品を、最後の仕上げに、まとめるのである。製造業者と各労働者とは、何れも、独自の小企業者と見做され、彼等は、夫々、その家族の内部に於いては、更らに、仕事を、妻子の間に分つのである。かかる小企業者は、一個の人形を完成するにも、夫々、頭部、胴体、音声、置台等と専門に分れて、八種乃至十種を認めることが出来る。次に、分

業は、製造家の家族間に行われ、例之、父は台を組立て、頭を描き、漆を塗り、母は衣類を裁断し、娘達は着物を縫い、更らに、着物を台置の上へ掛け、子供等は脚に着色するのである。以上、略述した様な分業によつて、單なる手先仕事に於いても、亦、大量の商品が、短時間に、完成され得ることは、明白であらう。

次に、眼を転じて、販売の問題に移る。製品の販売は、第十八世紀以来、完全に、少数の前貸人たる商人の手中に歸し、是等の前貸人は、その敏活な働らきと見通しとによつて、此の地方の工業の販路を拡張したことは、たしかである。此の販路は、すでに、第十八世紀の前半に於いて、和蘭及び英蘭、瑞典及び諸威、露西亞、澳太到、匈牙利、ジューベンジュールゲン（Siebenbürgen）等の諸国へ拡大したのである。

一七八九年にマイニンゲル政府は、二十六の、特に挙げられた、ゾンネンベルグ（Sonnenberg）の商会と、四個の、地方の商会の団体に、絶体独占権を認可し、而かも、此の独占権は、オーベルランド（Oberland）に於いて完成された商品の販売に対してのみならず、又、香料、呉服類の販売に就いても、認められたのである。

此の特権は、七十年間以上も保持されたが、而かも、一方に於いて、商人には、自から製造することが、禁止されていたが、漸く近代に至り、工場制工業に適する商品が、彼等商人の知る処となるや、此の禁令は、商人にとつて、煩瑣なものとなつて来たのである。

一八六二年、チューリンゲン（Thüringen）の諸邦に対して、産業自由の原則が導入されるや、直ちに、彼等商人は、工場、或いは、一層適切に表現するならば、仕事場を設立したのである。特に、仕事場と云う表現を用いたのは、凡そ、玩具工業には、現今尙お、機械は、殆ど、何等の役目をも演じていないからである。是等の仕事場は、漸次、大量商品及び流行のよい商品を支配し、小規模の家内労働者には、最も困難な、又、殆ど、儲け

にならぬ仕事が残されるに至つたのである。

一八八二年には、ゾンネベルグ市 (Sommerberg) に於いて、合計四百人乃至五百人を有する、十一の、大なる玩具商品の仕事場、各々、五人乃至二十人の徒弟と、二七三人の完成者を有する、四十の、可なり大なる手工業経営とが、あつた。此の都市の周辺に位置する、多数の村落に於いては、労働者は、何れも、自からの手と、それに従属する手に制限されて居り、玩具商品に於ける、本来の家内工業は、尙お依然として、二万人の人口を給養したのである。可なり大なる製造家だけが、彼等の製品を、自から、市場へもたらすことが出来、他の人々は、何れも、彼等の作品の販売の爲めのみならず、又、その原料の買付注文に就いても、更らに、家庭の必需品購入に於いても、何れも、無条件に、商人に依存したのである。是等商人が、たとい、法律上認められた独占の特権なしでも、尙お依然として、採算がとれることは、次の事情が、最も雄弁に物語るであらう。即ち、一八七〇年以來、成立して来た、約二〇個の商会が、一八七三年の大恐慌に耐え得て、一八八二年には、その中の一個も、没落せなかつたのである。